

( 図中のせりふ )

エ、やかましい静しづかにしる 悪あくに強つよきは善ぜんにもと世よのたとへ

にもいふ通り親おやの歎なげきが不便ふびんさに娘むすめの命いのちを助たすける

為腹ためはらに巧たくみの魂胆こんたんを練堀小路ねりべいこうじに隠かくれのねへ

お数寄屋坊主すきやぼうずの宗俊そうしゆんが丸まるい天窓あたまを幸さいわひに

衣ころもでしがを忍しのぶが岡神おかがみの御末みすへの一品親王いつほんしんわう

宮みやの使つかひと偽いつわつて神風かみかぜよりも御威光ごいこうわうの

風かぜを吹ふかして大魂だいたんに出雲いずもの守かみの上邸かみやしきへ

仕掛しかけた仕事しごとの曰窓いわくまど家中かちういぢやう一統白壁いつとうしらかへと

思おもひの外ほかに帰かへりがけ邪魔じやまな

所ところへ北村大膳腐きたむらだいぜんくされ

薬くすりを付つけたら

知しらず拔ぬきさし

ならねへ高類たかほの

瘰ほくるほし星ほしを指されて見み

出だされたらそつちで帰かへれと

いわふともこつちで此儘このまゝ帰かへられねへ此玄関このげんくわんの

表向おもてむきおれに街かたりの名なを付つけて若年寄わかとしよりへさし出だすか

但しは騙りを押隠し御使ひ僧で無難に帰すか

ニツにニツの挨拶を聞ねへ内は宗俊も只此儘にヤア

帰られねへ